

学長定例記者会見要項

日 時： 令和元年11月6日（水） 11：00～11：45
場 所： 法人本部第二会議室（小白川キャンパス法人本部棟4階）

発表事項

1. 印刷方式によるフレキシブル有機薄膜太陽電池の実証試験を開始
～株式会社MORESCO・株式会社イデアルスター・INOELの共同研究～
2. 学際研究の成果により旧柏倉家住宅が国の重要文化財に
～建築学・人文社会科学・文化財科学による共同研究～
3. 山形大学米沢キャンパスで光計測評価室が稼働開始
～日本最大級、有機ELやLEDの光源測定設備の外部利用が可能に～
4. 山形大学認定「蔵王樹氷火山総合研究所」の活動について
～噴火ハザード数値シミュレーション構築・樹氷への環境の影響解明へ～
5. 地域活性化のための起業家育成へ全国のコンソーシアムが集結
～文科省「次世代アントレプレナー育成事業」イベントを山形で開催～

お知らせ

1. 第16回学長特別講演会を米沢キャンパスで開催します
2. COC+シンポジウム「高等教育機関による若者定着の“これまで”と“これから”」について
3. スマートテロワール豊穣感謝祭2019を開催します
4. 第2回高分子と有機材料に関する国際会議(2nd IPOMY)を開催します！
5. 「科学で東北を盛り上げ隊！@石巻」を開催します
6. やまがた夜話の開催について

(参 考)

- 次回の学長定例記者会見（予定）

日 時： 令和元年11月21日（木） 11：00～11：45

場 所： 法人本部第二会議室（小白川キャンパス法人本部棟4階）

学長定例記者会見（11月6日）発表者

1. 印刷方式によるフレキシブル有機薄膜太陽電池の実証試験を開始 ～株式会社 MORESCO・株式会社イデアルスター・INOEL の共同研究～

学術研究院 産学連携教授（有機エレクトロニクスイノベーションセンター担当）

なかだ ひとし
仲田 仁

学術研究院 産学連携教授（有機エレクトロニクスイノベーションセンター担当）

こうでん みつひろ
向 殿 充 浩

2. 学際研究の成果により旧柏倉家住宅が国の重要文化財に ～建築学・人文社会科学・文化財科学による共同研究～

学術研究院 教授（建築史）

ながい やすお
永井 康雄

3. 山形大学米沢キャンパスで光計測評価室が稼働開始 ～日本最大級、有機 EL や LED の光源測定設備の外部利用が可能に～

学術研究院 教授（視覚情報処理）

やまうち やすき
山内 泰樹

4. 山形大学認定「蔵王樹氷火山総合研究所」の活動について ～噴火ハザード数値シミュレーション構築・樹氷への環境の影響解明へ～

学術研究院 教授（火山学）

ばん まさお
伴 雅雄

学術研究院 教授（雪氷学、地球化学）

やなぎさわ ふみたか
柳澤 文孝

大学院理工学研究科博士前期課程 1年

すぎした ななみ
杉下 七海

5. 地域活性化のための起業家育成へ全国のコンソーシアムが集結 ～ 文科省「次世代アントレプレナー育成事業」イベントを山形で開催 ～

山形大学国際事業化研究センター長

おのでら ただし
小野寺 忠司

令和元年（2019年）11月6日

印刷方式によるフレキシブル有機薄膜太陽電池の実証試験を開始 ～株式会社MORESCO・株式会社イデアルスター・INOELの共同研究～

【本件のポイント】

- 有機薄膜太陽電池で発電した電力を日照量や発電量の計測、及び計測したデータの通信に使用する実証試験を開始
- 有機薄膜太陽電池は、ロール・ツー・ロール印刷方式で作製するため安価で、製造から廃棄までの温暖化ガス生成を大幅に低減することが可能。また、半透明であるため窓に設置しても太陽光を遮ることが無く、プラスチックフィルムを用いているためフレキシブルで、薄く、軽く、割れないという特長を持つ



【概要】

山形大学有機エレクトロニクスイノベーションセンター（INOEL）では、株式会社 MORESCO (<http://www.moresco.co.jp/>) と株式会社イデアルスター (<http://www.idealstar-net.com/>) との共同研究により、ロール・ツー・ロール印刷方式で作製した有機薄膜太陽電池モジュールの実証試験を開始しました。

評価に用いた有機薄膜太陽電池モジュールの大きさは、1m×0.34mで、INOELの2階の窓に8枚設置しました。この太陽電池モジュールで発電した電力を利用して、日照量や温度、電力（電圧と電流）を計測し、その値を1階のディスプレイまで送信します。送信された太陽電池モジュールの実証試験の様子は、デモ展示としてINOELへの来所者の皆さんにご覧いただけるようにしています。

今回の実証試験では、気象データなどの計測や計測結果の通信用途に有機薄膜太陽電池を応用することで、ボタン電池の代替としての用途開発も併せて行います。

遠隔地で計測した様々なデータを電池交換無しで送受信するシステムや、屋内での人の移動や見守り用の機器など、IoT向けデバイスやセンサー用の電力としての応用等が期待されます。

【背景】

フレキシブルで軽く割れない、透明性の高い安価な太陽電池といったシリコン系太陽電池には無い特徴を持つ太陽電池の創製が待たれており、新たな用途への展開が期待されています。

【研究手法・研究成果】

本有機薄膜太陽電池モジュールは、半透明であるため窓に設置しても太陽光を遮ることが無く、プラスチックフィルムを用いていることから、フレキシブルで、軽く、割れないという特長を持っています。また、太陽光発電用に普及している結晶シリコンに比べ、屋内での発電効率が高いという特長があるため、屋内での発電用途向けへの応用が期待されます。

開発した有機薄膜太陽電池モジュールはロール・ツー・ロール印刷方式で作製するため、従来のシリコン系太陽電池と比較して製造コストが安価であり、製造から廃棄までの温暖化ガスの生成を大幅に低減できるため、よりクリーンな再生可能エネルギーを生み出すことができます。

【今後の展望】

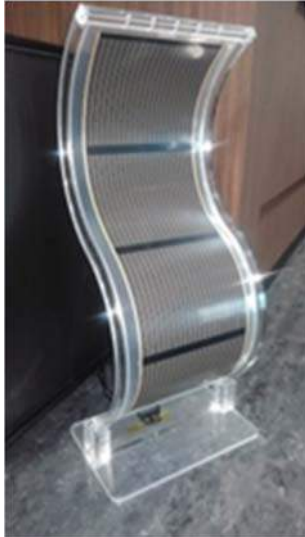
今回の実証試験を踏まえて、通信システム用の電源への適用やボタン電池代替などの可能性を検証します。

※本研究の一部は、「産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム(OPERA) (科学技術振興機構 (JST))」の支援を受けています。

お問い合わせ

山形大学学術研究院 産学連携教授 仲田 仁 (有機エレクトロニクスイノベーションセンター担当)
TEL 0238-29-0575 メール nakada@yz.yamagata-u.ac.jp

印刷方式によるフレキシブル有機薄膜太陽電池の実証試験を開始 ～株式会社MORESCO・株式会社イデアルスター・INOELの共同研究～



フレキシブル有機薄膜太陽電池モジュール
(1mX0.34m)

INOEL

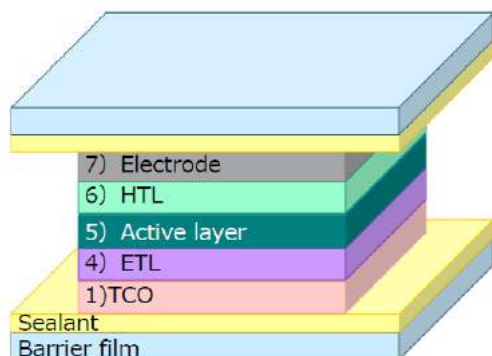
山形大学 有機エレクトロニクスイノベーションセンター
産学連携教授 仲田 仁
産学連携教授 向殿 充浩
准教授 古川 忠宏
准教授 結城 敏尚

1

【有機薄膜太陽電池 OPV (Organic Photovoltaic)】

OPVは発電部分に**有機材料**を用いる太陽電池です。**ロール・ツー・ロール印刷方式**で作製するため安価で、従来のシリコン系太陽電池に比べて**製造から廃棄までの温暖化ガス生成を大幅に低減**することが可能です。

【太陽電池パネルの構造と製造プロセス】



OPV断面図

- 1)透明電極 (TCO) 成膜
- 2)パターニング
- 3)基板洗浄
- 4)電子輸送層(ETL)印刷
- 5)発電層(Active layer)印刷
- 6)正孔輸送層(HTL)印刷
- 7)電極印刷
- 8)集電電極取付
- 9)封止

TCO: Transparent Conductive Oxide
ETL: Electron Transport Layer
HTL: Hole Transport Layer

【OPVの特長】

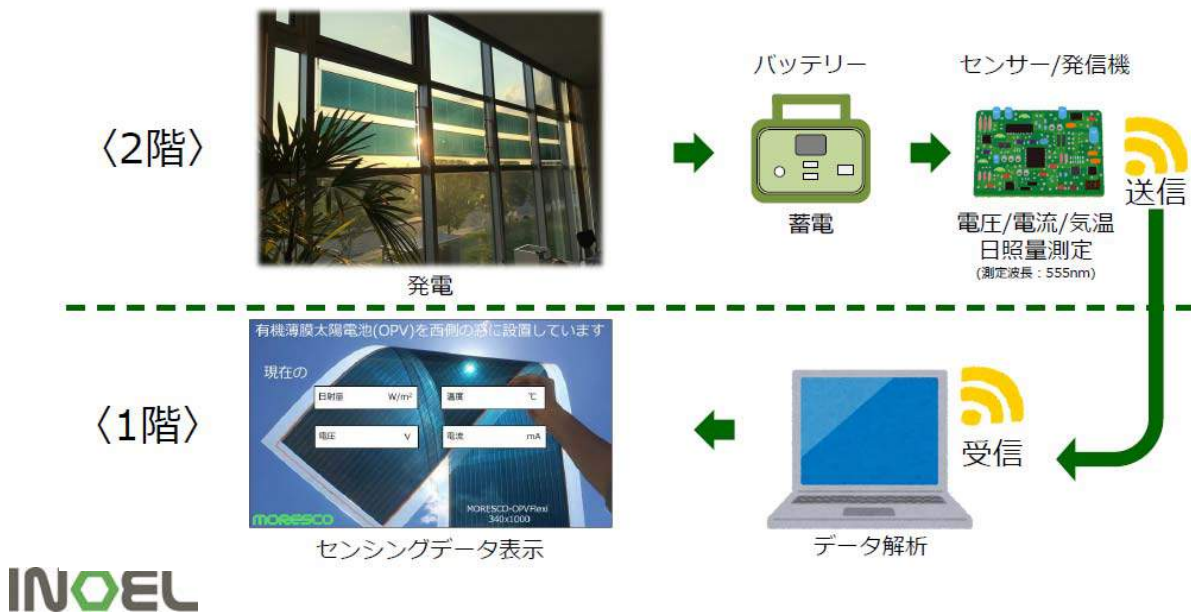
半透明であるため窓に設置しても太陽光を遮ることが無く、プラスチックフィルムを用いているため**フレキシブル**で、**薄く、軽く、割れず**、設置場所を選びません。

INOEL

2

【開発したアプリケーション・実証試験】

評価に用いた有機薄膜太陽電池モジュールの大きさは**1m×0.34m**で、INOELの2階の窓に8枚設置しました。この太陽電池モジュールで発電した電力を利用して、**日照量や温度、電力(電圧と電流)**を計測し、その値を1階のディスプレイまで送信します。送信された太陽電池モジュールの実証試験の様子は、デモ展示としてINOELへの来所者の皆さんにご覧いただけるようにしています。



3

【OPVの応用展開】

今回の実証試験では、**気象データなどの計測や計測結果の通信用途**に有機薄膜太陽電池を応用することで、**ボタン電池の代替**としての用途開発も併せて行います。**遠隔地で計測した様々なデータを電池交換無しで送受信するシステム**や、**屋内での人の移動や見守り用の機器**など、IoT向けデバイスやセンサー用の電力としての応用等が期待されます。

<共同研究先>

- ・株式会社MORESCO(<http://www.moresco.co.jp/>)
- ・株式会社イデアルスター(<http://www.idealstar-net.com/>)

※本研究の一部は、「産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム (OPERA) (科学技術振興機構(JST))」の支援を受けています。

令和元年（2019年）11月6日

学際研究の成果により旧柏倉家住宅が国の重要文化財に ～建築学・人文社会科学・文化財科学による共同研究～

【本件のポイント】

- 学際研究（永井康雄教授 [建築史・工学部担当]、岩田浩太郎教授 [古文書・人文社会科学部担当]、門叶冬樹教授 [炭素C14年代測定・理学部担当]）により歴史的建造物の建築年代や増改築の経緯が解明され、文化財的な価値が科学的に立証された。
- 文化財保護法改正に伴い、文化財を保存・活用して地域の活性化に繋がっていくことや地域の歴史・文化の継承に役立つことが期待される。
- 県内の国宝・重文指定は、平成21年に旧鶴岡警察署の指定以来10年振り、今回で30件目。11月21日に中山町で記念シンポジウムを開催。



【概要】

中山町に所在する旧柏倉家住宅について、建物の構造や平面、意匠などに対する建築史的な調査、C14年代測定による建築部材の年代測定、同家に伝来した膨大な古文書の整理・解読など多角的な観点からの調査研究を山形大学の研究チームが実施した。その結果、18世紀前半から現在に至るまでの屋敷地や屋敷を構成する建物の変遷（建て替えや増改築など）について詳細が明らかになり、現存する建物の建築年代を確定することができた。

今回の分析で、旧柏倉家住宅は江戸時代以来の上層農家の形式を継承しつつ、明治期に大地主として発展した南東北地方の上質な農家建築として価値が高く、敷地内には当地方の生活様式を伝える附属建物も良好に残っていることも明らかとなり、令和元年9月30日付で国指定の重要文化財となった。現在、旧柏倉家住宅は中山町の所有となっており、町では将来のまちづくりの要の一つとして保存・利活用が期待される。

【背景】

柏倉家は江戸時代には村山地方で最多級の紅花を栽培した豪農で、明治期には大地主として成長した。その一方で、様々な社会事業を通して地域社会に大きく貢献した。平成29年4月に柏倉家から中山町に建物（昭和55年に山形県指定文化財）および敷地が寄贈され、町では文化財として大切に保存するとともに、地域活性化に寄与する貴重な資源として利活用することとした。

山形大学工学部と中山町は平成29年6月に包括連携協定を締結し、旧柏倉家の文化財的な価値を再評価する取り組みを開始。調査では、建築史学や地域の建築専門家のみならず、人文社会科学や文化財科学との学際研究チームを結成し、多角的な観点から総合的な調査を実施してきた。

【研究手法・研究成果】

建築史学では建物の平面構成・建築技法・装飾などの様式的な観点から、人文社会科学では古文書の整理・分類・解読などの観点から、文化財科学ではC14年代測定による建築部材の科学的な年代測定を実施した。

その結果、これまで必ずしも明確でなかった旧柏倉家住宅を構成する建築物の建築年代を全て特定することに成功。柏倉家が当地に居を構えた時代に近い18世紀前半から現在に至るまでの屋敷・建物の変遷を解明することもでき、当地方における上層農家の生活様式を伝える貴重な文化財であることを科学的に立証した。

【今後の展望】

山形県には数多くの文化財建造物が残されているが、学術的な研究がなされていないものが多々ある。学際的な研究・調査をすることにより、多くの文化財の価値が再認識でき、地域活性化の貴重な資源となりうる。

お問い合わせ

学術研究院教授 永井康雄（建築・デザイン学科担当）

TEL 023-628-4238 メール y-nagai@e.yamagata-u.ac.jp

令和元年（2019年）11月6日

山形大学米沢キャンパスで光計測評価室が稼働開始 ～日本最大級、有機ELやLEDの光源測定設備の外部利用が可能に～

【本件のポイント】

- 経済産業省の照明用有機ELの性能評価等に関する国際標準化・普及基盤構築事業の成果として、全光束や配光などの光源特性を測定する「光計測評価室」を設置しました。
- 日本最大級の3m積分球で大型の光源であっても測定可能（この大きさの測定装置が稼働するのは東北では初めて）。
- 有機ELのみならず、LEDやその他の光源の中でも大きなサイズ的光源が精度よく測定できる設備が外部の方も利用可能。



【概要】

山形大学では、山内泰樹教授（視覚情報処理）が中心となって照明用有機ELの性能評価等に関する国際標準化・普及基盤構築に向けて、研究を進めてきました。このたび、「光計測評価室」を新たに米沢キャンパス（有機エレクトロニクスイノベーションセンター：INOEL）に設置し、これまでの研究開発活動の成果も盛り込みながら、その設備を外部利用できるように整備しました。光源の性能として最も基本的な全光束（全体でどれくらいの光量が発せられているのか）、配光（どの方向にどの程度の光量が発せられているのか）をメインにその他の光源の特性も測定することが可能です。特に全光束は、直径3メートルという日本最大級の積分球を用いて測定を行うので、大型の光源にも対応可能です。また、OLEDの国際規格の検討に際しては、山形大学も検討メンバーとして参画しており、将来的には、本設備も国際規格で定める測定法に対応していく予定です。

【背景】

省エネルギー化社会を目指すにあたり、照明にも高効率化が求められるようになりました。LEDや有機EL(OLED)はエネルギー消費が少ない次世代光源と呼ばれていますが、特にエネルギー消費に対してどれくらいの光量を発光するかを表すエネルギー効率が光源の性能評価の一つになりました。光源を評価するには、正しく光量（全光束）を測定する必要があります。特に、光源が大きくなると正確に測定することは難しいとされてきましたし、OLEDのような従来の点光源・線光源とは異なる面形状の全光束を正確に測定することが求められてきました。

【研究手法・研究成果】

山形大学では、平成26～28(2014～2016)年に取り組んだ、経済産業省の「有機EL照明の性能評価等に関する国際標準化・普及基盤構築」事業において、面光源であるOLEDの測定方法など性能評価に関する研究を行ってきました。それと並行して普及基盤構築事業として、各種測定装置をオープンに利用可能とし、より高効率な照明の実現に向けた評価ができるように整備を進めてきました。光計測評価室に設置された積分球は日本最大級の直径3メートルを有しています。また、測定対象は特にOLEDに限定されないため、2メートル超の直管型LEDなどの大型光源を測定することも可能です。JNLA認定^(※)は受けていないので、正式な試験証明書は発行できませんが、簡易な測定としてご利用いただけることを期待しています。

【今後の展望】

東北地方でこの大きさの測定設備が稼働するのは初めてです。これまで関東以西に測定依頼をすることを余儀なくされていた、東北地方の照明器具や光源メーカーの皆さんにご利用いただき、地域振興に役立ちながら、LEDやOLEDの光源開発の推進に繋がっていきたく考えています。

OLEDの国際規格の検討に際しては、山形大学も検討メンバーとして参画しており、将来的には、本設備も国際規格で定める測定法に対応していく予定です。

※用語解説

JNLA 認定：工業標準化法（JIS 法）の JIS で規定された試験方法に基づく製品試験を行う試験事業者を登録する JNLA 登録制度において、JNLA 登録試験事業者として認定されること。「評価者（試験所）の能力を第三者照明（認定）」することによって評価（試験）結果の信頼性を担保するものです。

お問い合わせ

学術研究院 教授 山内 泰樹（視覚情報処理）

TEL 0238-26-3346 メール yamauchi@yz.yamagata-u.ac.jp

令和元年（2019年）11月6日

山形大学認定「蔵王樹氷火山総合研究所」の活動について ～噴火ハザード数値シミュレーション構築・樹氷への環境の影響解明へ～

【本件のポイント】

- 2014年11月に山形・蔵王地域周辺の地質・大気環境の特性を解明し防災に役立てることを目的として設置された山形大学認定*「蔵王樹氷火山総合研究所」の認定期間が2024年10月まで延長。
- これまでの研究で、蔵王火山全体の噴火史を見直すと共に、樹氷のできかたについて新たなモデルを作成。
- 噴火ハザードの数値シミュレーション、樹氷に対する成層圏や沙漠からの影響を明らかにすることを旨とする。



【概要】

山形・蔵王地域周辺の地質・大気環境の特性を解明し防災に役立てることを目的として、2014年11月に設置された山形大学認定「蔵王樹氷火山総合研究所」は、2024年10月まで認定期間が延長されました。学内外の研究者の協力を得ながら、火山については噴火ハザードの数値シミュレーション、樹氷（アイスモンスター）については海水以外の水、および、成層圏や沙漠からの影響を明らかにすることを旨とします。

【研究所を設置した社会的背景】

蔵王山やその周辺地域の自然環境は近年2つの点で大きく変わりつつあります。一つ目は、2011年3月の東北太平洋沖地震の結果としての島根内部の環境の変化です。その結果、温泉活動の変化や、噴火前兆的現象の活発化がみられます。二つ目は、大気環境の変化で、大陸からの汚染物質の飛来増加や蛾の食害による樹氷の木の枯死の拡大です。これらは地球温暖化との関連が懸念されています。

蔵王山や周辺地域を対象として、火山噴火現象を火成岩や深成岩を用いて研究して地下の環境を解明すること、樹氷を用いて近年の大気環境変化をモニタリングすること、および地域の防災対策に寄与することを目的として2014年11月に研究所が設置されました。

【これまでの研究成果】

火山では蔵王火山全体の噴火史の見直しを目標としてきました。その結果、過去約2千年間の噴火履歴の精密化およびマグマ供給系の解明が促進されました（産総研火山地質図 no.18 蔵王火山・環境保全 No19）。

樹氷では樹氷のできかたの解明を目標としてきました。その結果、日本海と東シナ海起源の水があることや、戦時下の蔵王で飛行機に対する着氷実験が行われたことが明らかとなりました（環境保全 No21）。

これらの研究成果は、2019年8月3日～10月24日に行われました山形大学附属博物館企画展「山形大学創立70周年記念 蔵王と山形大学 ～樹氷・御釜・信仰～」で公開いたしました。

※山形大学認定研究所とは、自主的共同研究の推進を支援し本学の研究活動の活性化を図るために、社会的要請の高い分野、学際的分野、先駆的分野などにおいて分野を横断した自主的共同研究を行うグループをひとつの組織として承認するものです。

お問い合わせ

学術研究院 教授 伴 雅雄（火山学）

TEL 023-628-4642 メール ban@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

【今後の研究概要】

今後 5 年間もこれまでの研究を引き継いで研究を行います。

島弧内部については、火山の噴火履歴の火山学的な詳細解明や今後の噴火ハザードの数値シミュレーション、深成岩の岩石学・地球化学的研究によるマグマ及び熱水流体の発生・移動の解明を行います。

樹氷については継続した地球化学的モニタリングを行います。特に、海水以外の水の起源について、および、成層圏や沙漠からの影響、越境汚染の影響などについて研究を進めます。

1. 噴火ハザードの数値シミュレーション

将来の噴火した際の影響の予測を行うことを目的として、過去の噴火について火山弾の数値シミュレーションを行い、実際の噴火の火山弾の分布と比較することで、シミュレーションの有効性を検証します。

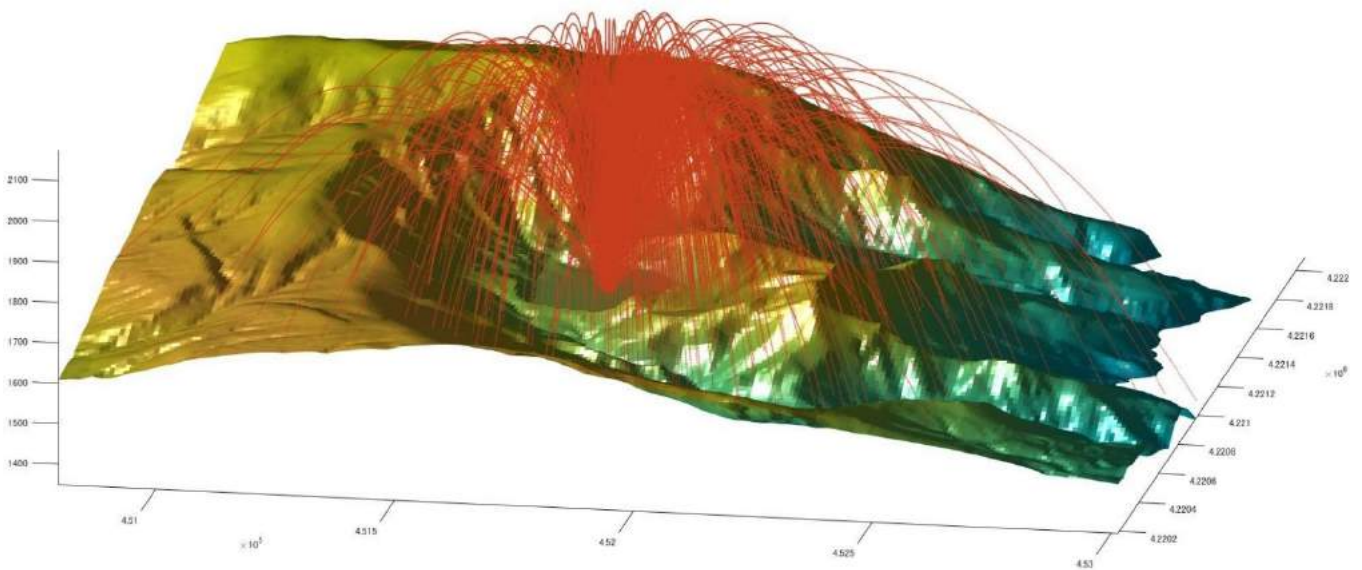


図1 蔵王山1895年噴火の際の火山弾のシミュレーション

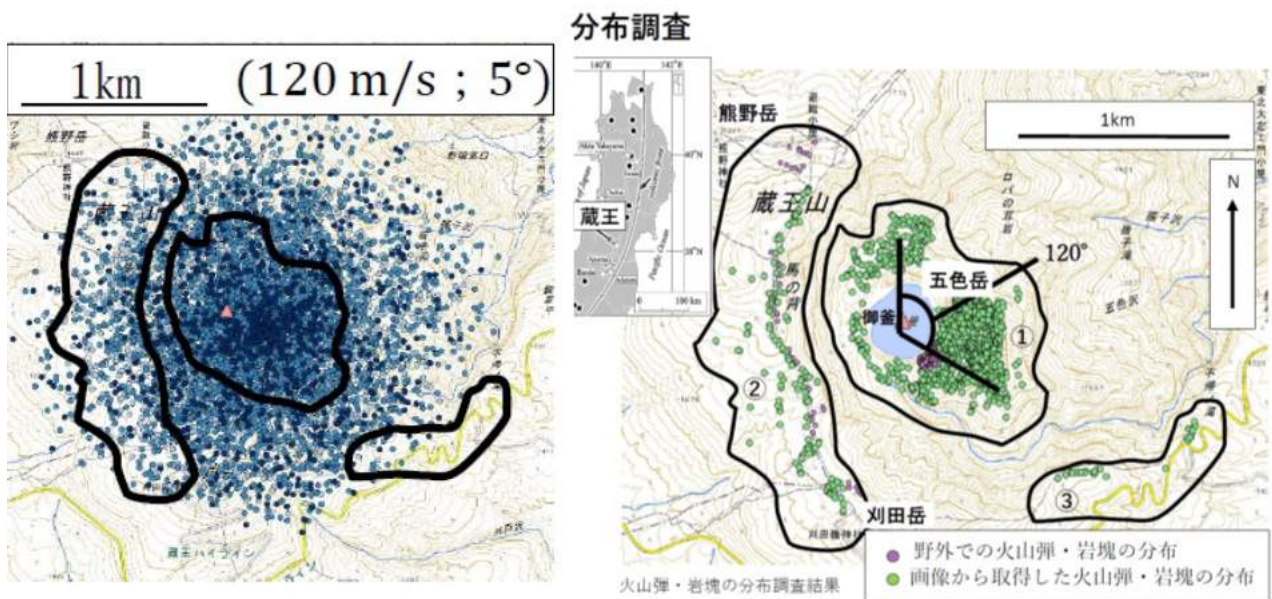
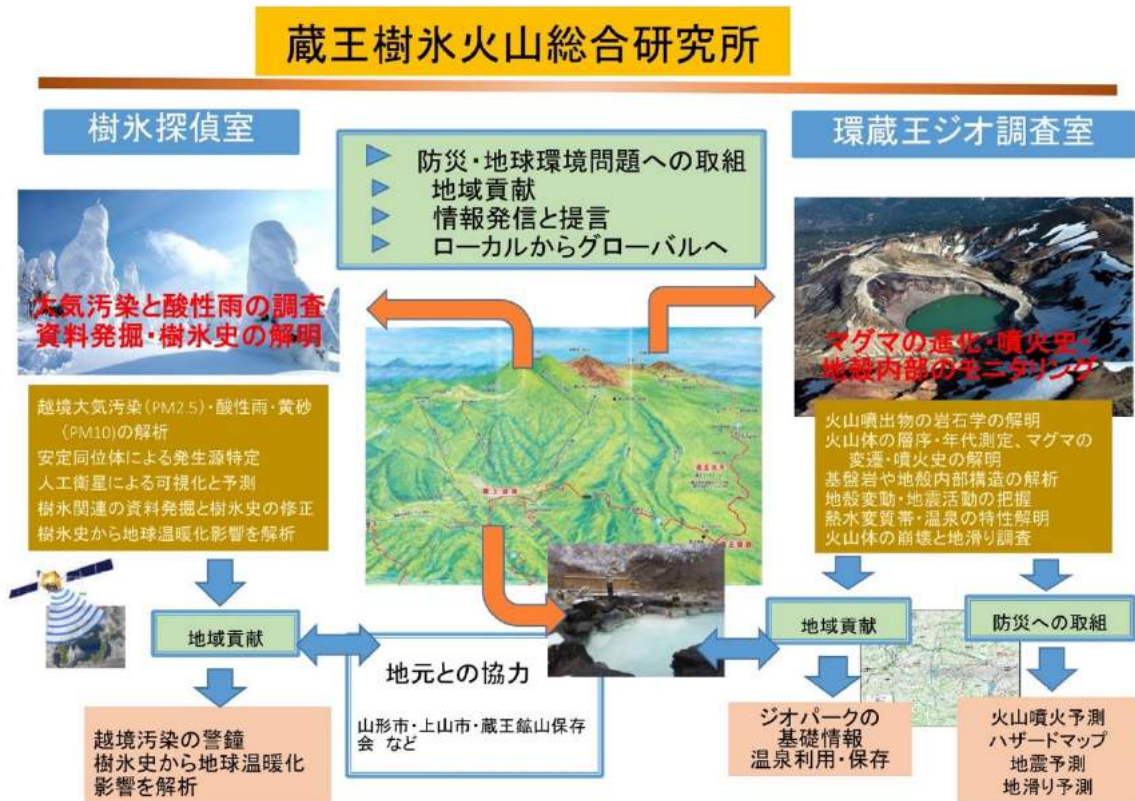


図2 数値シミュレーションにより得られた火山弾の分布（左図）と、航空写真とフィールド調査から得られた実際の噴火の火山弾の分布（右図）がよく一致しています。

(別紙) 山形大学認定「蔵王樹氷火山総合研究所」について



【研究組織】

氏名	所属 職名	専門分野
伴 雅雄 (所長)	山形大学学術研究院 教授	火山学
柳澤文孝 (副所長)	山形大学学術研究院 教授	雪氷学、地球化学
岩田尚能	山形大学学術研究院 准教授	年代学
加々島慎一	山形大学学術研究院 准教授	岩石学
湯口貴史	山形大学学術研究院 准教授	岩石学
常松佳恵	山形大学学術研究院 准教授	火山学
八木浩司	山形大学学術研究院 教授	地形学
大友幸子	山形大学学術研究院 教授	地質学
赤田尚史	弘前大学被ばく医療総合研究所 教授	化学物質影響学
及川輝樹	産業技術総合研究所 研究員	火山学
武部義宜	サイバーストック代表・元山形大学特別研究員	火山学
中島和夫	山形大学名誉教授・山形大学客員教授	地球化学

【認定期間】 令和元年(2019年)11月～令和6年(2024年)10月

令和元年（2019年）11月 6日

地域活性化のための起業家育成へ全国のコンソーシアムが集結 ～文科省「次世代アントレプレナー育成事業」イベントを山形で開催～

【本件のポイント】

- 山形大学が協働大学として参加している文部科学省「次世代アントレプレナー育成事業」・EDGE-NEXTとして 地域活性化のための地域連携活動および起業家育成に関するシンポジウム&実践イベントを実施する。
- EDGE-NEXTは、現在、5コンソーシアム（全国から24大学が参加）で、起業家育成の活動を行っているが、今回、山形大学が参加しているSkyward EDGEコンソーシアムが主催者となり、山形市においてコンソーシアムの全大学が集結するシンポジウムおよび実践イベントを開催する。
- シンポジウム(11/30・1日間)では、1件の基調講演&3件の特別講演およびポスターセッションを行い、地域活性化に関する提言を行うと共に、実践イベント(11/29～12/1・3日間)として、地域活性化を実際の行動に移すために、地域活性化イノベーションキャンプを実施する。

【概要】

2011年の東日本大震災以降、まだ復興の道半ばにある東北に代表されるように、特に日本の地方において地域経済が衰退している状況にある。

この状況を打破し、地域に新たな息吹を吹き込むため、各地域単独の活動から脱皮し、各地域の大学・行政・企業が連携して改革に取り組んで新たな産業を起こし、地域全体の経済を活性化するとともに、日本全体を元気にすることを目的に「地域活性化のための地域連携活動および起業家育成に関するシンポジウム&実践イベント」を実施する。

特に今回、実践イベントとして「地域活性化に関する事業化アイデア創出」という活動を東北から全国に拡大する意味合いも含め、昨年度みちのくイノベーションキャンプとして実施したイベントを「地域活性化イノベーションキャンプ」として実施する。

【シンポジウム】 11/30（1日間）

- ・開会式：9:30-10:00
- ・基調講演：10:00-10:40（40分）
 - ①Victor Mulas
(Senior Program Officer,
Tokyo Development Learning Center (TDLC) Program, The World Bank)
演題：「Startups as an opportunity for local revitalization」
- ・特別講演：10:45-12:30（30分×3名）
 - ①堀井 秀之（一般社団法人日本社会イノベーションセンター(JSIC)代表理事、
i.school エグゼクティブ・ディレクター）
演題：「地域活性化のあるべき姿」
 - ②菅谷 常三郎（みやこキャピタル株式会社 代表取締役）
演題：「VCの視点からの地域創生と起業家教育」
 - ③マンジョット・ベディ（株)just on time代表取締役/(株)next is east代表取締役）
演題：「The Secret to Great Leadership～Great Leaders are not born, they are made～(仮)」
- ・パネル展示、説明：13:30-17:00
- ・閉会式：17:00-17:15

【実践イベント・地域活性化イノベーションキャンプ】 11/29 ～ 12/1 (3日間)

- ・実施内容： EDGE-NEXTに参加している大学、東北6県・新潟・北海道地域の大学に在籍する学生・研究者を中心に、ビジネスアイデアを具体化させ、起業・事業化したい方を対象に実施するブートキャンプ型ピッチイベント。

<11/29-30>

ビジネスアイデアに関して、メンターとのディスカッションを通じて、アイデアをブラッシュアップ。
11/30午後、予選会を実施して、決勝戦に進出するチームを選抜。

<12/1>

予選会通過チームによる決勝戦を実施。
上位チームを表彰し、賞状を授与。副賞として協賛企業賞を授与予定。

お問い合わせ

山形大学国際事業化研究センター

地域活性化イノベーションキャンプ事務局

担当：猪井、佐藤(英)

TEL：0238-26-3480(代) メール：yu-edge@yz.yamagata-u.ac.jp

地域活性化のための地域連携起業家育成に関する実践イベント



イノベーション キャンプ 2019

～地域から湧き立つイノベーション～

2019.11.29 Fri
-12.1 Sun

参加者募集!

応募締切
2019年11月18日月

参加
無料

東日本大震災以降、まだ復興の道半ばにある東北に代表されるように、日本の地方において地域経済が衰退傾向にあります。この状況を打破するために、地域に新たな息吹を吹き込み、各地域で大学・行政・企業が連携して改革に取り組み新たな産業を起こし、地域全体の経済活性化を実現するために、全国から有志が集結して実施する一大イベントが「地域活性化イノベーションキャンプ2019」です。

地域活性化の事業化アイデアを創出し全国の地域が活性化に向かうことを目指します。



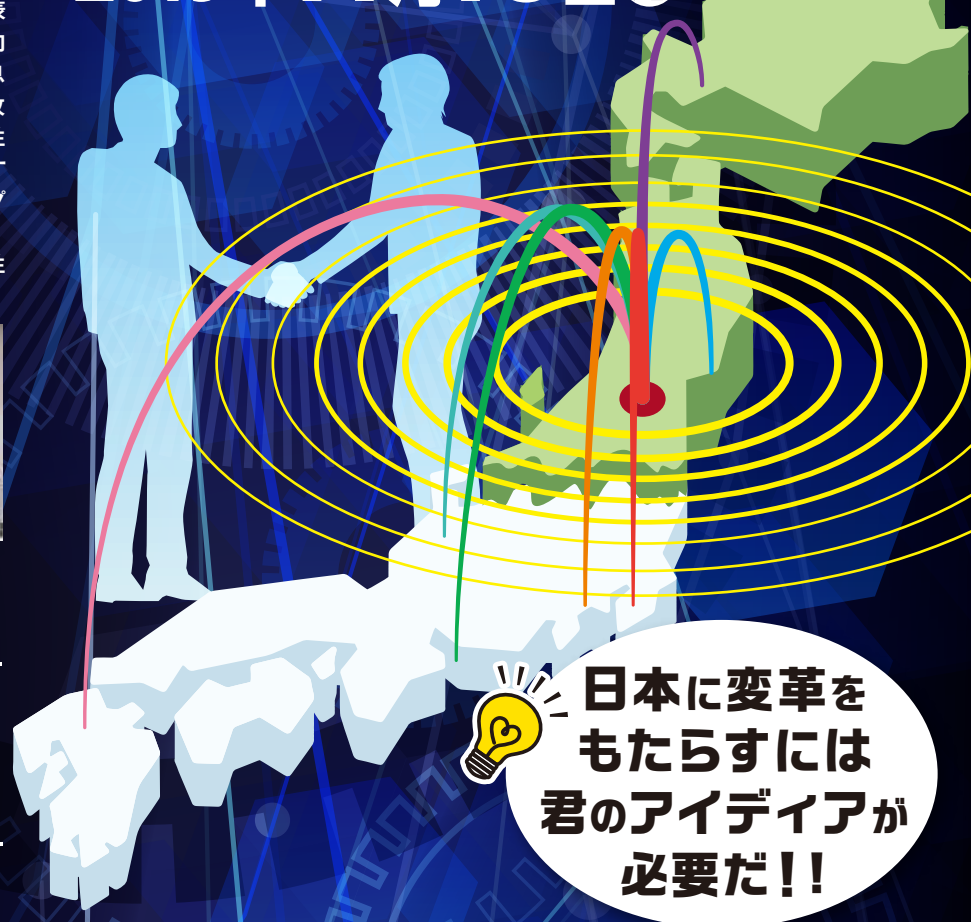
昨年実施のイノベーションキャンプ2018

2019.11.29 fri, 30 sat

ヒルズサンピア山形
〒990-2333 山形県山形市蔵王飯田 637

2019.12.1 sun

ホテルメトロポリタン山形
〒990-0039 山形県山形市香澄町 1-1-1



日本に変革を
もたらすには
君のアイデアが
必要だ!!

主催 / Skyward EDGE コンソーシアム

協力 / EARTH on EDGE コンソーシアム
Global Tech EDGE NEXT コンソーシアム
Tokai-EDGE(Tongali) コンソーシアル
IDEA コンソーシアム

地域活性化のための地域連携活動および
起業家育成に関するシンポジウム

11.30
同時開催

基調講演
特別講演3件
パネル展示
説明実施



詳細は、URL <http://bit.ly/2ITZxEq> 参照

申込はコチラ

山形大学国際事業化研究センター 地域活性化イノベーションキャンプ事務局
<http://bit.ly/31idJXh>



地域活性化イノベーションキャンプ2019

地域活性化イノベーションキャンプは、起業・創業、ビジネスの協創を目指す
学生・研究者のためのキャンプ式ビジネスプランコンテストです。

大学・研究機関等に在籍する学生、研究者を中心として、
ビジネスアイデアを具体化させ、起業・事業化したい方を対象とします。

11/29~30 : メンタリングおよび予選プレゼン

12/1 : 決勝プレゼン、表彰



メンタリング



発表



表彰

募集内容

対象者	■学生・研究者の方 ■起業・創業に関心がある方 ※個人参加・チーム参加可能
参加条件	■パソコンでの資料作成やメール連絡、データの送受信ができること ■キャンプまでにビジネスアイデアを組立て、口頭で発表できること ■宗教活動、政治活動を主たる目的とする個人・法人・その他団体、 また暴力団もしくは暴力団組合員の統制下にある個人・法人・その他 団体に該当しないこと
応募受付期間	2019年10月7日(月)~11月18日(月)

*参加費用は無料です。

*会場までの交通費、宿泊費、飲食費等は各自でのご手配と費用負担をお願い致します。

*希望者様は12/1 18時からのアフターパーティーにご参加いただけます。

別途会費が必要です。(会費：事前申込：3000円、当日申込：4000円)

お問い合わせ先

山形大学国際事業化研究センター
地域活性化イノベーションキャンプ事務局

(担当: 猪井、佐藤(英))

〒992-8510 山形県米沢市城南4丁目3-16

TEL : 0238-26-3480(代) FAX : 0238-26-3633(代)

Mail : yu-edge@yz.yamagata-u.ac.jp

申込はコチラ

山形大学国際事業化研究センター 地域活性化イノベーションキャンプ事務局
<http://bit.ly/31idJXh>



地域活性化シンポジウム

グローバルとローカル！ 両方の視点から熱く語られる 地域活性のあるべき姿！！

2019.11.30 sat 受付 9:00
開会・挨拶 9:30

ヒルズサンピア山形 2階 蔵王
〒990-2333 山形県山形市蔵王飯田 637

駐車場は十分に準備していますが、混雑が予想されますので、できる限り公共交通機関をご利用の上、ご来場ください。

参加
無料

基調講演 10:00~10:40

『Startups as an opportunity for local revitalization』

※本講演は英語での実施となります。

Victor Mulas 氏

Senior Program Officer, Tokyo Development Learning Center (TDLC) Program /
東京開発ラーニングセンター (TDLC) プログラム World Bank / 世界銀行

特別講演 10:45~12:30

01 『地域活性化のあるべき姿』

堀井 秀之 氏

一般社団法人日本社会イノベーションセンター (JSIC) 代表理事 /
i.school エグゼクティブ・ディレクター

02 『VC の視点からの地域創生と起業家教育』

菅谷 常三郎 氏

みやこキャピタル株式会社 代表取締役

03 『(未定)』

マンジョット・ベディ 氏

株式会社 just on time 代表取締役
株式会社 next is east 代表取締役

ポスターセッション

13:30~17:00

13:30~14:30

ライトニングトーク

日本全国から参加する大学の地域イノベーションに
関わる特徴ある取組に関するプレゼンテーション。

14:30~17:00

ポスターセッション

ポスターによる取り組みの事例紹介をもとに
ディスカッション。

詳細は裏面をご覧ください。

2019.12.1 sun 地域活性化実践イベント

ホテルメトロポリタン山形

〒990-0039 山形県山形市香澄町 1-1-1



主催 / 山形大学国際事業化研究センター

協力 / EARTH on EDGEコンソーシアム
Global Tech EDGE NEXTコンソーシアム
Tokai-EDGE(Tongali)コンソーシアム
IDEAコンソーシアム

地域活性化のための地域連携活動および起業家育成に関するシンポジウム

東日本大震災以降、まだ復興の道半ばにある東北に代表されるように、日本の地域において地域経済が衰退傾向にあります。この状況を打破するために、地域に新たな息吹を吹き込み、各地域で大学・行政・企業が連携して改革に取り組み新たな産業を起し、地域全体の経済活性化を実現するためのシンポジウムを開催します。

SPEAKER

01 Victor Mulas 氏

Senior Program Officer
Tokyo Development Learning Center (TDLC) Program / 東京開発ラーニングセンター (TDLC) プログラム World Bank / 世界銀行

Victor Mulas works at the intersection of disruptive technology, innovation, and cities. He leads global technology programs at the World Bank, including the Disruptive Technology for Development Program (DT4D) and the Global Smart Cities program. He is currently based in Tokyo, as head of the Tokyo Development Learning Center (TDLC) program, a partnership of the World Bank and the Japanese Government to boost operationalization of urban development projects leveraging Japanese expertise and best practices, including leading technologies and innovations. Prior to this, Victor led the Cities' Startup Ecosystems business line at the Innovation and Entrepreneurship Unit and set up the internal Innovation Acceleration Program at the World Bank Innovations Labs. He has authored leading research on startup ecosystems, technology disruption and economic transformation.



02 堀井 秀之 氏

一般社団法人日本社会イノベーションセンター (JSIC)
代表理事
i.school エグゼクティブ・ディレクター



2009年よりイノベーション教育プログラム、i.schoolをエグゼクティブ・ディレクターとして運営し、新しい製品、サービス、ビジネスモデル、社会システム等のアイデアを生み出すことのできる人材を育成。地域イノベーションをテーマに活動し、活動を発展させる方策として、一般社団法人日本社会イノベーションセンター

(Japan Social Innovation Center, JSIC)を2016年に設立し、社会的課題を解決する事業、すなわち社会イノベーション事業を推進する企業の活動を、霞ヶ関の官僚や産業界の方々からアドバイスし、大学生が事業構想の策定や事業の推進に参画することによって支援することを目指している。著書「問題解決のための「社会技術」」、「社会技術論：問題解決のデザイン」など。

03 菅谷 常三郎 氏

みやこキャピタル株式会社
代表取締役



ジャフコアメリカを創業、全米トップ100キャピタリスト(The Top 100 Venture Partners on the planet 2013, AlwaysOn)。みやこキャピタル代表取締役、

ジャフコアメリカPresident&CEO、(株)ジャフコ執行役員、モトローラ(株)R&D防衛大学校理工学部卒業 九州大学カリフォルニア・フェロー 山形大学 客員教授

04 マンジョット・ベディ氏

株式会社 just on time 代表取締役
株式会社 next is east 代表取締役



インド・ニューデリー生まれ。外交官の父の仕事で2歳より世界各地を巡り、17歳で来日。

1997年広告会社(株)ティール・ワイ・オー入社。クリエイティブ・ディレクターとして数々のCMを制作。2006年より同社クリエイティブチーム1st Avenueの代表としてトヨタ自動車をはじめ日本企業の

新興国戦略に携わる。2013年「伊勢神宮・式年遷宮」広報本部の活動を担う。2015年3月から「認知症カフェ」の第1号店「as a café」をトータルプロデュース。2017年(株)Just on time設立。CEOとして将来を見据え、日本を拠点に世界中のクリエイターとコラボレーションにより新しいクリエイティブ・ブティックのあり方を提唱・実践し、業界に新たな潮流を吹き込む。

当日スケジュールの詳細はこちらをご確認ください。

9:30 ~ 10:00 開会式
10:00 ~ 10:40 基調講演
※本講演は英語での実施となります。
10:45 ~ 12:30 特別講演 (各 30分)
12:30 ~ 13:30 昼休憩

13:30 ~ 17:00 ポスターセッション
①13:30 ~ 14:30 ライトニングトーク
②14:30 ~ 17:00 ポスターセッション
17:00 ~ 17:15 閉会式

お申し込みはホームページから

▼HPはこちら

<http://bit.ly/36fYWiy>



応募締切

11月25日(月)

【お問合せ先】 Skyward EDGE コンソーシアム／山形大学 国際事業化研究センター 担当：猪井、佐藤(英)
E-mail : yu-edge@yz.yamagata-u.ac.jp TEL : 0238-26-3480(代) FAX : 0238-26-3633(代)

シンポジウム&実践イベント 概略スケジュール

		シンポジウム関係	イノベーションキャンプ関係		
		2日目 11/30(土) @ヒルズサンピア山形		3日目 12/1(日) @ホテルメトロポリタン山形	
1日目 11/29(金) @ヒルズサンピア山形					
8:30					8:30
9:00			9:00- 受付開始	9:00- 集合	9:00
9:30			9:30-10:00 開会式 @2F 蔵王	9:30-11:00 実践イベント ↓ メンタリング @4F 霞城B	9:30
10:00			10:00-10:40 基調講演(1件) @2F 蔵王 ※イノベーションキャンプ参加者の聴講可		10:00
10:30					10:30
11:00			10:45-12:30 特別講演(3件:30分/件) @2F 蔵王 ※イノベーションキャンプ参加者の聴講可	11:00-12:00 昼休憩	11:00
11:30					11:30
12:00				12:00-16:00 開会式 実践イベント ↓ 決勝審査 @4F 霞城A・C	12:00
12:30	12:30山形駅集合⇒バスで移動	12:30-13:30 主幹機関会議 * ランチミーティング @1F 葉山	12:30-13:30 昼休憩		12:30
13:00	13:00-集合、受付@ヒルズサンピア山形	13:30~14:30 ポスターセッション ①ライトニングトーク	13:30-15:30 実践イベント ↓ メンタリング @鳥海 ※シンポジウム参加者の見学可		13:00
13:30					13:00
14:00	14:00-14:30実践イベント:イノベーションキャンプ オリエンテーション、メンター紹介 @2F 蔵王	14:30-17:00 ポスターセッション ②ポスターセッション	15:30-18:00 実践イベント ↓ 予選審査 @2F 月山・朝日、1F 最上 ※シンポジウム参加者の見学可		14:00
14:30	14:30-15:30 ビジネスプラン作成入門講座 @2F 蔵王			14:30	
15:00	15:30-18:00 実践イベント:イノベーションキャンプ ↓ 個別アイデア発表 メンタリング、アイデアブラッシュアップ @2F 蔵王				15:00
15:30			15:30		
16:00			16:00		
16:30				16:00-17:00 審査員による決勝審査	16:30
17:00		17:00~17:15 閉会式 17:15~17:30 パネル撤去		17:00-17:30 表彰、閉会式 @4F 霞城A・C	17:00
17:30		移動		解散	17:30
18:00	18:00-19:00 夕休憩	18:00~20:00 ネットワーキング (希望者、会費制) @ホテルメトロポリタン山形 (山形駅直結)	18:00-19:00 夕休憩 * 予選審査・集計	18:00-20:00 実践イベント アフターパーティー (希望者、会費制) @クワイエット カフェ (山形駅前)	18:00
18:30			19:00~19:30 予選審査結果発表		18:30
19:00	19:00-22:00 実践イベント:イノベーションキャンプ ↓ メンタリング、アイデアブラッシュアップ @2F 鳥海			19:00	
19:30				19:30	
20:00				20:00	
20:30					20:30
21:00					21:00
21:30			19:30-24:00 実践イベント ↓ メンタリング (希望者のみ) @2F 鳥海		21:30
22:00					22:00
22:30	22:00-24:00 実践イベント:イノベーションキャンプ ↓ メンタリング、アイデアブラッシュアップ (希望者のみ) @2F 鳥海				22:30
23:00				23:00	
23:30				23:30	
0:00					0:00

令和元年(2019年)11月6日

山形大学

* 詳細は別添の資料をご覧ください。

1. 第16回学長特別講演会を米沢キャンパスで開催します

「全産業デジタル化時代のイノベーションと人材育成～我が半生を振り返って」

シリーズで開催している学長特別講演会を米沢キャンパスで開催します。株式会社ブロードバンドタワー代表取締役会長兼社長CEO藤原洋氏（インターネット協会理事長、慶應義塾大学環境情報学部特別招聘教授、SBI大学院大学副学長）を講師に迎え、ベンチャー企業の起業の体験を通じ、イノベーション人材の育成についてお話いただきます。

テーマ：全産業デジタル化時代のイノベーションと人材育成～我が半生を振り返って

日時：12月12日(木)16:30～18:00

場所：山形大学米沢キャンパス 4号館中示範A教室

2. COC+シンポジウム「高等教育機関による若者定着の“これまで”と“これから”」

人口減少時代にあって、山形県でも若者の県内定着が大きな課題です。「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に取り組む活動のなかで見えてきた課題等を含めて、若者定着の今後のあり方を考えるシンポジウムを開催します。

日時：12月19日(木)13:30～16:10

会場：山形国際ホテル 3F 富士の間

参加費：無料（定員100名、申込み必要；締切は12月2日(月)まで）

3. スマート・テロワール豊穡感謝祭2019を開催します

地域の皆さま方に、農学部で進めているスマート・テロワールの取組みなどを紹介する豊穡感謝祭を開催します。プロジェクトの最前線で活躍する教員等の講演に加えて、美味しい加工食品の試食会をお楽しみいただけます。

日時：11月26日(火)13:30～17:00

会場：グランド エル・サン（鶴岡市東原町17-7）

参加費：無料（申込み必要；締切は11月22日(金)まで）

4. 第2回高分子と有機材料に関する国際会議(2nd IPOMY)を開催します！

マイクロプラスチック問題や有機EL研究など、高分子・有機材料の分野は、我々の生活にも身近な非常に重要な研究分野です。本学でも大学院有機材料システム研究科を中心として、有機エレクトロニクスと高分子研究で国際的に高い評価を得ています。より一層の発展を目的に、今回、国内外から第一線で活躍する研究者を招聘して高分子と有機材料に関する国際会議を開催します。

期間：12月17日(火)～12月20日(金)

会場：山形大学米沢キャンパス

※裏面へ続く

5. 「科学で東北を盛り上げ隊！@石巻」を開催します

子ども達に笑顔を届けたいと、東日本大震災後の平成 23 年度から、宮城県石巻市や福島県いわき市で開催している科学イベントで、今回で 14 回目になります。山形大学 SCITA センター学生スタッフのほか、東北芸術工科大学、東北大学など多くの団体が実験やサイエンスショーを行います。

日 時：11月24日(日)10:00～15:00

会 場：こもれびの降る丘遊楽館（石巻市北村字15-1）

参加費：無料（申込み不要、直接会場にお越しください）

6. やまがた夜話の開催について

大学コンソーシアムやまがたでは、それぞれの得意分野で活躍している第一人者の方からお話ししていただく「やまがた夜話」を開催しています。

12月は山形県東根市が生んだ日本の教育実践家、児童文学者の国分一太郎について、その研究者である山形県立米沢栄養大学の安部貴洋先生に2回にわたってお話していただきます。

— 求められているのは イノベーションだ。

全産業デジタル化時代の イノベーションと人材育成 ～ 我が半生を振り返って



講師 **藤原 洋** 氏

ブロードバンドタワー代表取締役会長兼社長CEO
インターネット協会理事長
慶應義塾大学環境情報学部特別招聘教授
SBI大学院大学副学長

先進国となった現在の日本に求められているのは、欧米のキャッチアップ型アプローチではなく、イノベーション。自らが技術とビジネスモデルにおける発明・発見を行う人材育成が重要である。本講演では、動画像のデジタル化研究開発プロジェクト、インターネット・テクノロジーベンチャー企業の起業の体験を通じ、イノベーション人材の育成について語る。

日時

2019年12月12日（木）16:30～18:00

会場

米沢キャンパス工学部4号館中示範A教室

問い合わせ・お申込み

総務部広報室(E-mail koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp)



学長特別講演会シリーズ～山形から世界へ～



山形大学 学長特別講演会

「山形から世界に通用する技術やプロダクト・学術研究をどんどん生み出そう。そして、山形を元気にして地域創生につなげよう」というコンセプトを広く発信し、定着させるため、学生、教職員、高校生、一般市民を対象とした学長主催の特別講演会を定期的を開催しています。

第16回講演会

全産業デジタル化時代のイノベーションと人材育成 ～ 我が半生を振り返って～

【講 師】 株式会社ブロードバンドタワー 代表取締役会長 兼社長CEO
藤原 洋 (ふじわら ひろし) 氏

1977年3月京都大学理学部卒業。東京大学工学博士(電子情報工学)。日本アイ・ビー・エム(株)、日立エンジニアリング(株)、(株)アスキーを経て、1996年12月、(株)インターネット総合研究所を設立。同社代表取締役所長に就任、2012年4月、(株)ブロードバンドタワー代表取締役会長兼社長CEOに就任。公職:(財)インターネット協会理事長、慶應義塾大学環境情報学部特別招聘教授、SBI大学院大学副学長を兼務。2013年12月総務省ICT新事業創出推進会議構成員、2014年1月同省電波政策ビジョン懇談会構成員、2016年10月同省新世代モバイル通信システム委員会構成員、2018年12月～同省デジタル変革時代のグローバルICT戦略懇談会構成員。



参加申込について

氏名(ふりがな)、年齢(学生は学部・学科)を記入し、下記までメールでご連絡ください。

送信先: 山形大学広報室
koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



交通・会場ご案内

山形大学米沢キャンパス(米沢市城南4丁目3-16)

- ◆ JR 米沢駅から ◆
 - ・南西へ約3km(徒歩約40分)
 - ・市内路線バス「白布温泉」行きで「城南二丁目」下車(所要時間約11分)そこから徒歩約3分
 - ・市街地循環バス右回りで「山大正門」下車(所要時間約15分)



高等教育機関による 若者定着の“これまで”と“これから”

人口減少時代にあって、山形県においても若者の県内定着が近年の大きな課題となっています。その解決に向けて、山形県内の大学・高専は、自治体・産業経済団体等と連携したプロジェクト「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に取り組んで来ました。各教育機関は教育・研究を通して、学生が県内企業や地域社会等の魅力にふれ、山形の将来を担う気概を醸成し、地域社会に貢献する能力を高める取組を実施してきました。

本シンポジウムでは、COC+事業の各教育機関の成果を報告し、そのなかで見えてきた課題等を含めて、高等教育機関による若者定着の今後のあり方を考えていきます。



令和元年

12.19 木 13:30 ~ 16:10
(開場 13:00)

会場
山形国際ホテル
3F 富士の間(山形市香澄町 3-4-5)
参加無料(定員 100名)

プログラム 進行 三澤 由有実【地域教育文化学部 4年】

開会挨拶・趣旨説明 13:30 ~ 13:45

第1部 成果報告 13:45 ~ 14:45

1. COC+事業・全体成果
2. 連携高等教育機関
 - 1) 山形大学
 - 2) 山形県立米沢栄養大学
 - 3) 鶴岡工業高等専門学校
 - 4) 東北公益文科大学
 - 5) 東北芸術工科大学
 - 6) 東北文科大学・東北文科大学短期大学部

第2部 パネルディスカッション 14:55 ~ 16:10

テーマ: 高等教育機関による山形の若者定着のこれから

パネリスト

- 安部 美夏氏 【ASE ジャパン株式会社 管理部マネージャー】
高橋 仁氏 【トヨタカローラ山形株式会社 人財開発室課長】
五十嵐 一憲氏 【鶴岡市企画部政策企画課 課長補佐】
渡会 幸司氏 【最上総合支庁産業経済部地域産業経済課 産業振興専門員】
三上 英司氏 【山形大学COC+推進室長, 地域教育文化学部副学部長】

ファシリテーター

- 大森 桂氏 【山形大学 地域教育文化学部長】

12/2月
申込締切



参加申込み方法

【参加者氏名】及び【所属(学生の方は学年も)】を申込み先へE-mailでご連絡ください。また、お手数ですが、件名を【COC+シンポジウム申込み】とお願いいたします。
※申込みの事項については、本シンポジウムの開催目的以外で使用することはありません。

申込み先 cocsuisin@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

山形大学COC+推進室

電話 ▶ 023-695-6264 FAX ▶ 023-695-6229

E-mail ▶ cocsuisin@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

〒 999-3101

山形県上市市金瓶湯尻 19-5 山形大学総合研究所 501

令和元年度COC+シンポジウム

高等教育機関による 若者定着の“これまで”と“これから”

シンポジウム参加申込書 申込締切 12/2(月)

ふりがな	
参加者氏名	
所属 <small>学生の方は 学年も記入 してください。</small>	
お住まいの市町村	
電話番号	
Eメール	

※ご記入いただきました事項については、本シンポジウムの開催目的以外で使用することはありません。

FAX
送信先

023-695-6229 このまま送信ください

Eメール

cocsuisin@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

お問い合わせ・申込み先

会場案内

山形大学COC+推進室

電話 ▶ 023-695-6264

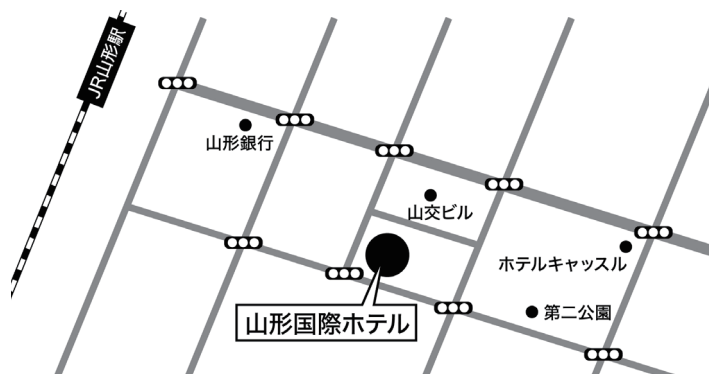
FAX ▶ 023-695-6229

E-mail ▶ cocsuisin@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

〒 999-3101

山形県上山市金瓶湯尻 19-5

山形大学総合研究所 501



参加費無料

要お申込み

どなたでも
ご参加ください!

100%「庄内産」を楽しもう!

豊穰感謝祭

2019
庄内スマート・テロワール

＜ プログラム ＞



「ローカル SDGs・
地域循環共生圏と
スマート・テロワール」

環境省大臣官房環境計画課 計画官
中島恵理 氏

13:40 ▶ 14:20



第1部

庄内スマート・テロワールの
取り組み紹介

これまでの歩みがよく分かる！
プロジェクトの実践メンバーによる講演

14:20 ▶ 15:30



第2部

スマート・テロワール
試食会

美味しい加工食品を食べながら
一緒に庄内地域の未来像を考えましょう

15:40 ▶ 17:00

11/26 2019 火 13:30 ▶ 17:00

at グランドエル・サン
山形県鶴岡市東原町 17-7

詳細・お申込は裏面へ

“庄内スマート・テロワール”は、 持続可能な循環型農村社会を目指す取り組みです。

スマート・テロワールとは、食料の生産から加工、販売、消費までの全てを地域内で完結できる「特色のある持続可能な循環型農村経済圏」を構築する取り組みです。2015年の国連サミットにおいて「SDGs（エス・ディー・ジーズ：持続可能な開発目標）」が採択され、持続可能な社会づくりのための循環型農業の確立は、ますます大きな課題となっています。

庄内地域の特色を活かし、庄内地域ならではの持続可能な循環型農村社会の形成を目指した「庄内スマート・テロワール実証プロジェクト」も今年で4年目。これまでに庄内の原料を用いて庄内で加工したハムやソーセージ、ベーコン、味噌などの“美味しい加工食品”を開発し、地域の皆さまに提供してまいりました。また、今年6月には庄内スマート・テロワール（庄内自給圏）推進協議会を設立し、構想の実現に向けてさらなる歩みを進めております。

スマート・テロワールの構想と、これまでの歩みについて、地域の皆さまから深くご理解いただきたく、本年も豊穣感謝祭を開催いたします。プロジェクトの最前線で活動するメンバーたちの講演と“美味しい加工食品”の試食会を楽しみながら、ぜひ一緒に、庄内地域の未来像を考えてみませんか？

プログラム

11/26 火 13:30-17:00

第1部

（会場）
グランドエル・サン
クリスタルホール

13:30 開会の挨拶

13:40 庄内スマート・テロワール（庄内自給圏）推進協議会会長 林田光祐氏

13:40 基調講演

14:20 ローカルSDGs・地域循環共生圏とスマート・テロワール

環境省大臣官房環境計画課 計画官 中島恵理氏

SDGsとは持続可能な開発のための国際目標です。スマート・テロワールが目指している「持続可能な農村社会の形成」はこの目標に重なりますが、特に、地域の特色を活かした循環型農村社会を形成することにその特徴があると言えます。

14:20 「スマート・テロワール」って何だ？

14:30 山形大学農学部 教授 浦川修司氏

14:30 循環型農業における畜産の役割

14:50 山形大学農学部 准教授 松山裕城氏

14:50 庄内のテロワールを活かした地域循環型畑輪作

15:10 山形大学農学部 助教 中坪あゆみ氏

15:10 スマート・テロワールが目指す農村社会

15:30 一般社団法人スマート・テロワール協会会長 中田康雄氏



中島恵理氏プロフィール

1995年環境庁（現在環境省）入省。2011年に長野県へ出向し、環境エネルギー戦略策定に関わる。その後環境省に戻り、15年から19年まで長野県副知事としてSDGsに関する取組に携わる。2019年4月より現職。休日は長野県富士見町で農的な環境保全型ライフスタイルを実践している。

第2部

（会場）
グランドエル・サン
ローズルーム

スマート・テロワール試食会

15:40 美味しい加工食品を食べながら、一緒に
17:00 に庄内地域の未来像を考えましょう

- メニュー
- ・月山高原産じゃがいものお料理
 - ・エサから庄内産のハム・ソーセージ
 - ・100%庄内産の味噌



お申込み方法

「メール」または「FAX」または「LINE」にて、①～⑥の必要事項をご記入の上、お申込みください。



申込み締切 令和元年 11月 22日（金） 締切

LINE LINE 登録はこちらから ▶

申込み先 「庄内スマート・テロワール」豊穣感謝祭事務局
（山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター内）

E-mail smart.terroir@gmail.com

〒997-0369 山形県鶴岡市高坂字古町 5-3 Tel: 0235-24-2278

FAX 0235-24-2270

（お申し込み欄）

① お名前			② 年齢	歳
③ 電話番号	④ E-mail			
⑤ ご職業	当てはまるものを○で囲んでください。 会社員 自営業 主婦 学生 その他（ ）		⑥ 参加人数	名

令和元年（2019年）11月7日

第2回高分子と有機材料に関する国際会議（2nd IPOMY）を開催 ～国内外から40名以上のリーディング研究者が集結～

【本件のポイント】

- 高分子合成、有機材料、高分子物性に関する分野の国際会議を開催いたします。本学における高分子・有機材料分野の一層の発展を図ることを目指します。
- 国内外から最先端の研究者を招待講演者として30名以上招聘し、高分子・有機材料に関する最新の技術動向・研究成果発表の場、研究者との交流の場を作ります。
- 前回は359名(海外31名、国内328名)が参加しました。今年は特に著名な6名の研究者の講演を無料として、大学関係者だけでなく県内外の研究者にも高分子・有機材料分野の最新動向を知る機会と国際交流の場を提供することにいたしました。



第1回国際会議の集合写真

【概要】

近年、マイクロプラスチック問題や有機 EL 研究など、高分子・有機材料の分野は、我々の生活にも身近な非常に重要な研究分野です。本学でもこれまで大学院有機材料システム研究科を中心として、有機エレクトロニクスと高分子研究で国際的に高い評価を得ています。より一層の発展を目的に、今回、国内外から第一線で活躍する研究者を招聘して高分子と有機材料に関する国際会議を開催します。例えば Yang 教授(有機材料)、Cakmak 教授(高分子物性)をはじめ、高分子研究と有機 EL・バイオセンサーなどの有機材料研究に関する第一人者を国内外から 40 名以上招待しています。特に著名な 6 名の講演は参加費無料で聴講することができ、地元の研究者にも最新の研究動向に触れ、第一線の研究者と交流を図る場を提供します。

【背景等】

大学院有機材料システム研究科は、高分子分野及び有機材料分野において極めて高い評価を受けております。近年では有機エレクトロニクス分野だけでなく、プラスチックで自動車を開発するなどユニークな研究も高く評価されています。一方でマイクロプラスチック問題など高分子や有機材料を取り巻く研究分野は、常に早い速度で研究が進展しています。そういった中で本学がより一層この分野で中心的存在となるため、世界中の研究者との国際交流を活発化し、世界の最新研究動向を把握することが必要と考えられます。そこで、この分野の第一線の研究者を 40 名以上招待して講演していただく場を作ることで、本学の一層の発展と山形県内の研究者にもこの分野の研究を広く知って頂き、国際交流をする場を提供するのが我々の務めであると考えます。

【日時・目的等】

伝国の杜(米沢)にて 12 月 17 日～20 日の日程で、2nd International Conference of Polymeric and Organic Materials in Yamagata University を大学院有機材料システム研究科主催で開催します。42 名の招待講演のほか、成果発表を本学に限らず広く募集することで、近隣の大学関係者や企業研究者が国際的な発表を行なうとともに海外の研究者との交流する場を提供します。さらには聴講のみの学生は参加費無料とすることで、学生に対する国際会議体験や海外研究者との交流の場を提供します。

お問い合わせ

学術研究院 教授 松葉豪

TEL 0238-26-3053 メール ipomy@yz.yamagata-u.ac.jp

IPOMY

The Second International Conference of Polymeric and Organic Materials in Yamagata University

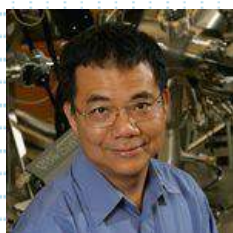
Dec. 17-20.2019

Denkokunomori, Yonezawa

Scientific Topics

- **Polymer synthetic chemistry**
- **Polymer Physical property engineering**
- **Optical and/or electronic organic material engineering**

Plenary Speakers



Prof. Yang Yang
UCLA/Westlake
University
USA/China
(Dec.18AM)



Prof. Hiromitsu Maeda
Ritsumeikan University
Japan
(Dec.18PM)



Prof. Mukerrem
Cakmak
Purdue University
USA
(Dec.18PM)



Prof. Helmut Münstedt
Friedrich-Alexander
University Erlangen-
Nuremberg
Germany
(Dec.19PM)



Prof. Hironori Kaji
Kyoto University
Japan
(Dec.19PM)



Prof. Philippe Buhlmann
The University of
Minnesota
USA
(Dec.20)

Important Dates

Submission deadline of abstract
18 November 2019

Notification of Acceptance
24 November 2019

Deadline of Online conference Registration
30 November 2019

Registration Fee

Regular	JP¥ 30,000
Student(poster presentation)	JP¥ 5,000
Student(visit only)	FREE
Regular(plenary lecture only)	FREE

Time Schedule

Dec 17PM	Welcome Party
Dec 18AM	Plenary lecture and invited lecture
Dec 18PM	Plenary lecture and invited lecture
Dec19AM	Invited lecture
Dec19PM	Plenary lecture, Poster session and Banquet
Dec20	Plenary lecture and invited lecture

Over 30 leading researchers in Japan and abroad on polymer and organic materials are scheduled to give a lecture

○Polymer synthetic chemistry
Prof. Patrickios Costas(University of Cyprus)
Prof. Toshiyuki Oyama(Yokohama National University)
Prof. Atsushi Goto (Nanyang technological University)

○Polymer Physical property engineering
Prof. João Maia(Case Western Reserve University)
Prof. Yuichi Masubuchi(Nagoya University)
Prof. Kyunh Hyun Ahn (Seoul National University)

○Optical and/or electronic organic material engineering
Prof. Klaus Meerholz(University of Cologne)
Prof. Matti Mäntysalo(Tempere University of Technology)
Prof. Su Shi-Jian (South China Univ. of Technology)

令和元年(2019年)11月6日

「科学で東北を盛り上げ隊！@石巻」を開催

【本件のポイント】

- 東日本大震災から8年が経過するもいまだに復興の道半ばです。山形大学 SCITAセンター^(※1)では、子どもたちに科学の楽しさと不思議さを体験してもらうことで少しでも笑顔を届けたいという思いで、科学イベントを企画
- 平成23年度から宮城県石巻市や福島県いわき市で開催しており、今回で14回目
- 科学の花咲かせ隊^(※1)、山形大学SCITAセンター学生スタッフ、東北大学、NPO法人ガリレオ工房等多くの団体がブースでの実験やサイエンスショーを実施します。



【概要】

山形大学 SCITA センターでは、平成23年度に独立行政法人 科学技術振興機構の「科学コミュニケーション連携推進事業「地域ネットワーク支援」」の採択を受け、「科学で東北を盛り上げ隊！」の活動を開始し、平成24年度には文部科学省委託事業「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」の採択^(※2)を受け、平成27年度まで被災地での科学体験教室を実施してきましたが、採択事業終了後も引き続き山形大学 SCITA センター学生スタッフや「やまがた未来科学プロジェクト」の『科学の花咲かせ隊』のスライム・クラゲ・蔵王の各マイスターが中心となって、活動を継続しています。今回で通算14回目となりますが、参加団体は山形大学だけでなく、NPO 法人ガリレオ工房、東北芸術工科大学、東北大学など、回を重ねるごとに増加しており、内容も充実しています。

【内容】

- 開催日時 : 令和元年11月24日(日) 10時～15時
開催場所 : 石巻市 こもればの降る丘遊楽館 (石巻市北村字15-1)
内 容 : 参加者に各ブースや、サイエンスショーで科学体験をしてもらいます。
- ・のびるスライム・ふわふわスライム (スライムマイスター)
 - ・クラゲタッチ (クラゲマイスター)
 - ・とちのみ笛 (蔵王・月山マイスター)
 - ・ウォーターフラワー (SCITAセンター学生スタッフ)
 - ・ころころ水玉くるくる水時計 (昭和女子大学・NPO法人ガリレオ工房)
 - ・モアモアしおり、アンドロメダファイトスペースコロシウム (東北大学)
 - ・サイエンスショー (NPO法人ガリレオ工房)

他 多数の団体

【申込方法等】 直接会場にお越しください。(参加料 無料)

お問い合わせ
山形大学SCITAセンター(棚井)
電話 023-628-4517

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

- ※1 山形大学 SCITA センターは、理科学習の普及活動を促進するための本学独自の「やまがた未来科学プロジェクト」に基づき、科学的思考能力を備えた将来の山形あるいは日本を支える人材『科学の花咲かせ隊』を育成する目的で設置されました。小学生から大人まで、全県民を対象に開催する体験型の科学実験教室プログラムイベントを提供して昨年は約8,000人の方に参加いただきました。
- ※2 「地域コミュニティ再生を支援する山形大学推進委員会」として委託され、SCITA センターでは、宮城県塩竈市・石巻市等の復興支援のため、被災地の小・中・高校生等を対象とした科学体験等の支援を行いました。

参加
無料

科学で東北を

子どもから大人まで、科学に集う、サイエンスフェスティバル!

盛り上げ隊! @石巻



2019年

♪ 小さなお子様は保護者同伴でご参加ください♪

11月24日  **10:00~15:00**

会場:こもれびの降る丘 遊楽館(石巻市北村字前山15-1)

☆サイエンスショー☆

「黒と白 見える?見えない?光の世界」 NPO法人ガリレオ工房 滝川洋二 氏
「Let's理科読 音はビリビリ」 NPO法人ガリレオ工房 土井美香子 氏
「今年は国際周期表年」 山形大学教授 栗山恭直 氏
「CASTONの冒険」 東京大学サイエンスコミュニケーションサークルCAST
「ワクワクどきどき科学実験クイズショー」 東京学芸大学附属高等学校

★実験ブース紹介★

☆「東京学芸大学附属高等学校科学実験隊」
東京学芸大学附属高等学校

☆「ウォーターフラワー」
山形大学SCITAセンター学生スタッフ

☆「のび~るスライム/
ふわふわスライムであそぼう」
スライムマイスター

☆「楽しい色遊び」
東北芸術工科大学教育アートプロジェクト

☆「モアモアしおりをつくろう」
東北大学理学部・理学研究科広報サポーター

☆「川の流れを見て学ぼう!」
リトルリバーリサーチ&デザイン×山形大学理学部
サイエンスコミュニケータープログラム

☆「とちのみ笛をつくろう」
藤王・月山マイスター

☆「モーターをつくってみよう」
Science & Technology for All

☆「アンドロメダファイト
~スペースコロシアム~」
東北大学天文学教室アンドロメダファイト

☆「リングキャッチャーで遊ぼう」
科学講座研究会

☆「ころころ水玉くるくる水時計」
昭和女子大学・NPO法人ガリレオ工房

☆「クラゲふれあいコーナー」
クラゲマイスター

主催 やまがた『科学の花咲く』プロジェクト(山形大学)
共催 東北大学理学部・大学院理学研究科

■ 問合せ先 ☎023-628-4506

山形大学SCITAセンター内

<http://www.yamagata-u.ac.jp/scita/chiiki/>

後援 石巻市教育委員会、東松島市教育委員会、女川町教育委員会、河北新報社、
公益社団法人 日本化学会、公益社団法人 東京応化科学技術振興財団、
鶴岡市立加茂水族館、田宮印刷(株)、山形大学校友会、東北文教大学



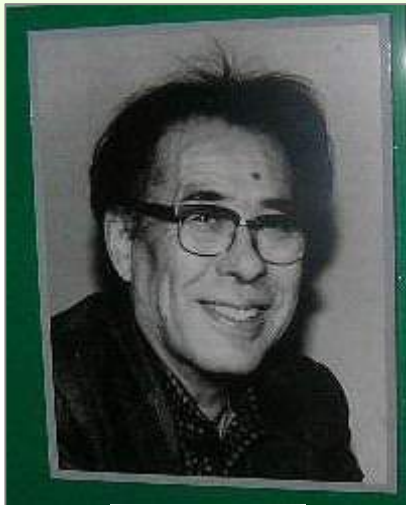
International Year of the Periodic Table of Chemical Elements
国際周期表年2019

令和元年(2019年)

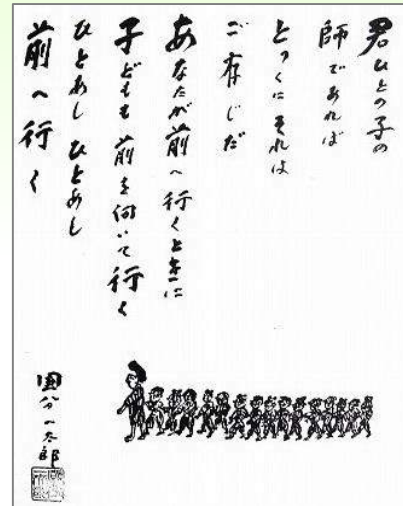
やまがた夜話

「国分一太郎と生活綴方」

山形県東根市が生んだ日本の教育実践家、児童文学者として知られる国分一太郎(こくぶん いちたろう)。その研究者である山形県立米沢栄養大学の安部貴洋先生に2回にわたってお話していただきます。



国分一太郎



国分一太郎直筆の色紙

12月 6日(金)「綴方教師の誕生と北方性教育運動への飛翔」

12月13日(金)「戦後の生活綴方と国分一太郎の遺産」

※時間はすべて18:30 ~ 19:30です。

講師:安部 貴洋 氏 (山形県立米沢栄養大学教授)



会場 ゆうキャンパス・ステーション
(山形むらきさわビル1階)

アクセス 山形駅東口より徒歩1分

対象 高校生・学生・一般市民

申し込み 事前に裏面の参加申込をFax, 郵送するか、必要事項を記入したメールでお申し込みください。

定員:50名

入場無料

主催

大学コンソーシアムやまがた

お申込み
お問合せ

〒990-0039 山形市香澄町1-3-15 山形むらきさわビル1階

Tel:023-628-4842 Fax:023-628-4820 E-mail:unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp





FAX:023-628-4820

大学コンソーシアムやまがた事務局 行き

やまがた夜話に参加申込みをします。

必要事項を明記の上、FAX・郵送またはE-mailにてお申してください。

申込締切日:それぞれの夜話前々日までにお申込をお願いいたします。

参加日	参加希望日に☑、又は日付を○で囲んでください。 <input type="checkbox"/> 令和元年12月6日(金) 講師: 安部 貴洋 氏 <input type="checkbox"/> 令和元年12月13日(金) 講師: 安部 貴洋 氏
住所	〒
氏名	
連絡先	TEL
	E-mail
所属	必須ではございません

・受講申込者が定員を超えた場合には、入場をお断りさせていただく場合がございます。

・この申込書にご記入いただいた情報は、今回の講座を受講するために必要な事務連絡等に使用すると共に、参加者名簿の作成にのみ使用させていただきます。

【お申込み・お問合せ先】

大学コンソーシアムやまがた ゆうキャンパス・ステーション

〒990-0039 山形市香澄町1-3-15 山形むらさきさわビル1階

TEL:023-628-4842 FAX:023-628-4820 E-mail:unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp